

令和元年6月12日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01413

研究課題名(和文) 特別支援教育・作業療法士と教員のための環境因子観察表と実践モデルの開発

研究課題名(英文) Special Support Education: Development of an observation sheet for environment factors and support models for occupational therapists and teachers working in "regular class" settings

研究代表者

辛島 千恵子 (Karashima, Chieko)

名古屋大学・医学系研究科(保健)・教授

研究者番号：00324088

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：特別支援教育での「通常の学級」への訪問支援において、作業療法士の評価手段の「環境因子観察チェック表(以下、観察表)」が完成した。本観察表は日常生活や対人コミュニケーション、学習面での不都合がある特別なニーズがある児童に対して環境調整を行なうための評価ツールである。特徴は、物理的・人的環境因子となる「物、人」をどこをどのように観察するかが一目で分かるものであり、支援策が導きやすいものになっている。さらに実用化に向けて、観察表のチェック項目の数を精査する課題が残されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

通常の学級における特別なニーズがある児童(以下、児童)の感覚反応、行動についての評価ツールは開発されている。しかし、多くの場合児童は環境因子によって感覚反応の偏りや不適応な行動が生じることが明らかになっているため、本環境因子の観察表の活用による支援の強化と教員と作業療法士の協働が期待できる。同時に、経験の少ない作業療法士にとっても訪問時に適切な支援策を導くことができるようになる。臨床で用いられる評価ツールに比べて児童に負担をかけずに支援策を導くことができるなど、今後の「通常の学級」への訪問活動による支援とその成果に寄与するものである。

研究成果の概要(英文)：“The Observation Check List for Environmental Factors”(Observation List) by occupational therapists, to support regular class visits in special needs education, has been developed. Observation List is an evaluation tool to modify the environment for students who require special needs in terms of daily activities, interpersonal communication, and learning process. The unique feature of Observation List allows occupational therapists to make a plan to support these students, informing, at a glance, what and how to observe in terms of “things/persons” as physical and human environment factors. The number of check items of Observation List needs to be refined in order to put into practical use.

研究分野：発達障害作業療法

キーワード：特別支援教育 通常の学級 環境因子 観察表 作業療法 訪問活動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

[文部科学省の報告とインクルーシブ教育の具現化]

平成26年度文部科学省¹⁾はインクルーシブ教育の実現に向けて特別支援教育の推進のための専門家チームの活用に重点をおいている。23年度の幼稚園から高校までの調査結果¹⁾では、学校内で準備ができる 校内委員会、実態把握、特別支援コーディネータについては、84%から93%の実施率となっている。また、児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導目標や指導内容・方法を盛り込んだ 個別の指導計画の実施率は68%である。それに比べて、地域機関と連携を図る 専門家チームの活用が50%の実施率、個別の教育支援計画の実施率も54%に止まっている。この現状を鑑みたうえでの今後の課題は、関係機関や専門家との連携を図るなかで、児童の教育ニーズを多角的に捉えた個別の教育支援計画の充実と実施、ライフステージを見通した学校内での支援の強化である。今後、専門家との協働で行う長期的な視点に立った個別の教育計画の推進は急務である。そのために本研究の成果は大きく寄与するものと考えられる。

[名古屋市特別支援教育 OT 専門家チームの成果と課題]

名古屋市特別支援教育、OT 専門家チームでは、2007年より「通常の学級」に訪問し年間平均126名への支援の実績をあげている²⁾。OTのアセスメントは、授業を見学、観察するなかで実施されることが多く、限られた訪問時間と学校という異文化のなかで、児童に侵襲性がないように実施している。そのため「観察」という手段を通じて医療、保健教育で学んだ、臨床的リソースを生かし 学習課題の遂行、学校生活に必要な日常生活活動の遂行、対人コミュニケーションに関する課題、～のニーズをもつ児童の特性を感覚-運動面、認知、対人スキルから分析する。その上で、課題を環境との相互作用を踏まえて支援策を導くことが重要である。

- 1) 文部科学省：特別支援教育について(オンライン),
入手先:www.mext.go.jp/a-menu/shotou/tokubetu/main.htm
- 2) 伊藤玲子, 辛島千恵子他:特別支援教育における作業療法の根拠って?第2報-事後記録表からとらえた支援の実際-.日本作業療法士学会誌 45:332,2011.

2. 研究の目的

作業療法士(以下、OT)や教員が「通常の学級」で特別な教育ニーズのある児童生徒(以下、児童)と相互的に影響し合う物理的、人的環境を観察して、特別な教育ニーズを導くための環境因子観察表(以下、観察表)を開発する。観察表を活用して、支援策を導くための実践モデルを提案する。

3. 研究の方法

[研究の概要]

研究1: 対象はOT20名と通常学級の教員20名。「児童の支援のために物理的環境、人的環境のどこを(誰を)どのように観察するか」など、インタビューガイドを用いて半構成的インタビューを実施する。その後、質的手続き(KJ法)にて解析して観察項目を生成する。さらに観察項目の妥当性の検証をデルファイ法によるアンケート調査により検証する。

研究2: 研究1の観察表を用いて支援をしたOT20名と教員20名が児童の特別な教育ニーズを見出し支援策が導かれた経験をインタビューし、質的手続きにて解析し支援策に至るリソースニングプロセスを概念化して実践モデルを提示する。

[研究1の方法]

作業療法士・教員のための「観察表」の作成と妥当性の検証。

対象： 大阪、京都、名古屋、神奈川(以下、各地域)の児童の支援にあたる作業療法士 10 名と教員 10 名(予定)

手順と方法: インタビューガイドにそって「児童へ支援を行うにあたって児童を取り巻く物理的、人的環境についてどこをどのように観察するか」について半構成的インタビューを実施し、ICレコーダに録音。

解析: 音声データを逐語化して KJ 法にと解析する。解析は、3 名で実施し分類の信頼性をカッパ係数にて算出。内的妥当性については、名古屋市教育委員会の特別支援教育指導室の協力を得て実施。

[研究 2 の方法]

対象: 各特別なニーズがある児童担任 20 名と学校訪問している OT20 名

手順と方法: 「研究 1」の「OT 用観察表」を用いて支援を実施。その後、観察表を用いて支援を導いたリーズニングプロセスを中心にインタビューし、ICレコーダに録音

解析: 音声データのテキストから逐語化したファクトの文脈を整えてコンテキストを作成する。分析的コーディングによりその意味づけを行う。意味づけしたものにテーマをつける

モデルの生成: 解析したテーマとその意味を支援の順序にそって整理する、再度意味づけをするなどをして、「観察表」を用いた教育と作業療法士の支援の過程と意味内容を図式化し実践モデルを生成する

4. 研究成果

[研究 1 の環境因子観察表のチェック表の完成]

観察表チェック項目の選定数

3 回繰り返しによる Delphi 法の最終結果から選定された小項目数(どこを、誰を、どのように何を)は、99 項目となった。選定された項目に類似するカテゴリを集めて大項目、中項目とした。大項目は、担任(中項目: 担任の考え方、担任の教示の仕方、科目担当の教員)、補助教員(中項目: 授業中の関わり方、担任と補助教員の関係)、学校運営者(中項目: 管理職、校長)、担任以外の教職員(中項目: 他クラスの教員、養護教諭、コーディネータ、特別支援学級、通級担当する教員、部活動の顧問)、家族(中項目: 養育者、担任と養育者の関係)、クラスの児童(中項目: 対象児の席周囲の児童、対象児以外に気になる児童、クラスのその他の児童たち、授業中の児童たち、休み時間の児童たち)、その他(中項目: 他の児童の養育者、場面別)、対象児の教室(中項目: 席の配置、個々の椅子と机、ロッカー、掲示板)、対象児の学校教材や道具(中項目: 机上の環境、筆箱・筆記道具、教材・プリント、学習道具など)、校舎の構造(中項目: 廊下)、個別支援をおこなう場所(中項目: クールダウンの部屋)、地域環境・資源・連携(中項目: 相談、療育機関、放課後支援、就学前情報)が選定された。

今後の臨床応用に向けての課題

チェック表の項目に従って、観察記入しやすくするためにさらなる項目の精査が必要となる。まずは、実際に作業療法士 10 名程度が使用下の後に、内的妥当性を検討して選定項目を絞り込む。

本研究の限界

研究 1 において、教員用のリクルートに関して通常小学校校長の承諾をえるのに時間がかかったため、教員のための環境因子観察表が完遂されなかった。さらにそれらの支援モデル生成に至らなかった。そのため継続的にデータを収集して、その後「実践モデルの提示」を行なう。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文:11件]

辛島千恵子: ノーベル文学賞作家・大江健三郎氏とカズオ・イシグロ氏の未来へのメッセージ, 健康文化 53, 64-67, 2018. (査読無)

横山恵理 辛島千恵子: 発達障害児と家族の外出に関する質問紙の開発に向けて, 作業療法 37(4), 410-420, 2018. (査読有)

辛島千恵子: 上肢・手の機能と対人コミュニケーション, 作業療法ジャーナル 15(8), 651-653, 2017. (査読無)

辛島千恵子: 発達障害がある成人、高齢者へのライフステージから捉えた支援, 健康文化 52, 18-22, 2017. (査読無)

剣持明日香 辛島千恵子: 運動障害がある子どもの外出に関する調査, 作業療法 37(1), 39-47, 2017. (査読有)

辛島千恵子: 遊びとは、遊びの特性と作業療法, 臨床作業療法 13(4), 295-299, 2016 (査読無)

吉田彬人, 辛島千恵子, 牧田智, 西川貴久子, 内田広夫: 先天性中枢性肺胞低換気症候群に合併したヒルシユスプルング病乳児の作業, 作業療法 35(6), 654-661, 2016(査読有)

本田 藍 辛島千恵子: 特別支援教育における「通常の学級」の環境因子観察チェックリストの開発に関する研究, 作業療法 36(1), 16-25, 2016(査読有)

Go Igarashi, Chieko Karashima, Minoru Hoshiyama: Effect of cognitive load on seating posture in children, Occupational Therapy International 23(1), 22-30, 2015(査読有)

西岡亜耶, 辛島千恵子, 五十嵐剛: 特別支援教育における作業療法士の訪問活動の成果-教員は作業療法士をどのように理解しているか-, 作業療法 34(3), 257-269, 2015(査読有)

辛島千恵子: 社会性の発達とコミュニケーション, 作業療法ジャーナル 49(5), 384-388, 2015(査読無)

[学会発表:3件]

剣持明日香 辛島千恵子: 運動機能障害がある子供の養育者の外出に関する調査研究, 第50回作業療法学会(2016年6月札幌)

岩田真李 辛島千恵子: 知的障害を伴う自閉症スペクトラム児の感覚処理機能と非言語的コミュニケーション行動の特徴及びその関係, 第49回作業療法学会(2015年6月神戸)

本田藍 辛島千恵子: 特別支援教育における観察チェックリストの開発, 第49回作業療法学会(2015年6月神戸)

[図書:6件]

辛島千恵子: イラストでわかる発達障害の作業療法、(上杉雅之監修、辛島千恵子編集), 小児の作業療法過程, 1-12, 2016.

辛島千恵子, 星野藍子: イラストでわかる発達障害の作業療法、(上杉雅之監修、辛島千恵子編集), 広汎性発達障害, 63-80, 2016.

笹井久嗣、板垣正樹、辛島千恵子: イラストでわかる発達障害の作業療法、(上杉雅之監修、辛島千恵子編集), 重症心身障害, 147-158, 2016.

五十嵐剛, 辛島千恵子: イラストでわかる発達障害の作業療法、(上杉雅之監修、辛島千恵子編集), ディションヌ型筋ジストロフィー, 177-192, 2016.

吉田彰人, 松井泰行, 西川喜久子, 辛島千恵子: イラストでわかる発達障害の作業療法、(上杉雅之監修、辛島千恵子編集), 小児整形疾患, 193-210, 2016.

辛島千恵子:作業療法を創る, (鎌倉矩子, 岩崎清隆編集), 青海社, 232-278, 2015.

[産業財産権]

該当なし

[その他]

ホームページ: <http://www.met.nagoya-u.ac.jp/OT/staff/karashima/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究分担者氏名: 清水英樹(2018年9月末まで)

ローマ字氏名: Hideki Shimizu

所属研究機関名: 名古屋大学 大学院医学系研究科

部局名: リハビリテーション療法学専攻 作業療法学講座

職名: 准教授

研究者番号: 70235662

研究分担者氏名: 上村純一

ローマ字氏名: Junich uemura

所属研究機関名: 名古屋大学 大学院医学系研究科

部局名: リハビリテーション療法学専攻 作業療法学講座

職名: 准教授

研究者番号: 70467322

(2) 研究協力者: 本田藍

ローマ字氏名: Ai honda

所属機関: 名古屋大学大学院医学系研究科 平成25年前期課程入学生

(現在) 南部地域療育センターそよ風 作業療法士